研究会概要

1月11日（金）

9：20－ 9：30	会頭（当番世話人）挨拶	4F中講義室
9：30－12：00	一般演題口演（session Ⅰ～Ⅲ）	4F中講義室
12：10－13：10	ランチョンセミナー	4F中講義室
13：20－15：50	一般演題口演（session Ⅳ～Ⅵ）	4F中講義室
16：00－16：45	教育講演	4F中講義室
17：00－19：00	意見交換会・懇親会	病院6F レストラン ロイヤル

1月12日（土）

9：20－ 9：50	世話人会	11F 会議室
10：00－11：40	一般演題口演（sessionⅦ・Ⅷ）	4F大講義室
12：00－13：00	ランチョンセミナー	4F大講義室
13：00－13：15	総会	4F大講義室
13：15－13：45	次回会頭挨拶・閉会	4F大講義室

【１日目】

Session Ⅰ　　1月11日（金）9:30-10:20 4F 中講義室

座長　橋本　隆（大阪市立大）

１．集学的治療が奏功した難治性尋常性天疱瘡の1例

○鹿毛勇太（かげ　ゆうた）、大須賀裕子、高松法子、鈴木麻生、中村和子（横浜市立大学附属市民総合医療センター）、松倉節子（済生会横浜市南部病院）、高橋一夫（国際医療福祉大学熱海病院）、蒲原　毅（横浜市立大学附属市民総合医療センター）

２．リツキシマブが著効した濾胞性リンパ腫合併腫瘍随伴性天疱瘡の一例

○山本祥子（やまもと しょうこ）、宮下和也、西村友紀、小川浩平、宮川　史、小豆澤宏明（奈良医大）、立石千晴、鶴田大輔（大阪市立大）、長谷川　淳（奈良医大血液内科）、浅田秀夫（奈良医大）

３．腎不全の進行と好酸球増多を伴った抗ラミニンγ1類天疱瘡の1例

○小松貴義（こまつ　たかよし）、野村尚史、加来　洋、大日輝記、椛島健治（京都大）

４．インフルエンザワクチン接種部位より再燃した線状IgA水疱性皮膚症

○森坂広行（もりさか ひろゆき）、佐野栄紀（高知大）、楠瀬　恵（くすのせ形成外科）

【1日目】

Session Ⅱ　　1月11日（金）10:20-11:10 4F 中講義室

座長　名嘉眞武国（久留米大）

5. 乳児に発症した水疱性類天疱瘡の1例

○井上紗惠（いのうえ　さえ）、渡辺　玲、高向梨沙、藤本　学（筑波大）

6. 後天性血友病を合併した水疱性類天疱瘡の1例

○温井勇希（ぬくい　ゆうき）、平澤祐輔、鎌田麻美、清水智子、池田志斈（順天堂大）、高久智生（同血液内科）

7. 乳癌への放射線療法により誘発したと思われた水疱性類天疱瘡の1例

○加藤望美（かとう　のぞみ）、稲毛明子、深井達夫（順天堂大練馬）

8. 抗BP180型粘膜類天疱瘡の2例

○阿部敏郎（あべ　としろう）、石井文人、古賀浩嗣、大畑千佳、名嘉眞武国（久留米大）

【１日目】

Session Ⅲ　　1月11日（金）11:10-12:00 4F 中講義室

座長　石河　晃（東邦大学大森）

9．長期間コントロール良好であったが急性増悪した後天性表皮水疱症の１例
○阿部佳奈美（あべ　かなみ）、川瀬正昭、出光俊郎（自治医大さいたま）

１０．ステロイド製剤の変更が有効であった水疱性類天疱瘡の1例
○岩倉理世（いわくら　りよ）、鈴木　緑、内田修輔、柳原茂人、大磯直毅、川田　暁（近畿大）、栗本貴弘（栗本皮膚科医院）

１１．当院で経験したPemphigoid nodularisのまとめ
○杉山聖子（すぎやま　せいこ）（川崎医大総合医療センター、川崎医大）、青山裕美（川崎医大）

１２．尋常性乾癬に合併した組織学的に好中球浸潤が著しい類天疱瘡の1例
○稲村衣美（いなむら　えみ）、岩田浩明、野原拓馬、水上卓哉、羽賀直哉、中山ちひろ、村松　憲、辻脇真澄、秦　洋郎、氏家英之、清水　宏（北海道大）

【1日目】

ランチョンセミナー　　1月11日（金）12:10-13:10 4F 中講義室

座長：澤村大輔（弘前大）
共催：日本製薬株式会社

天疱瘡・類天疱瘡治療の新時代
～Emerging therapyと既存治療～

久留米大学医学部皮膚科学教室　　講師　古賀浩嗣

天疱瘡・類天疱瘡の治療は現在もステロイド内服が主体ではあるが、他の免疫抑制剤内服、血漿交換療法、免疫グロブリン大量療法(IVIG)などの登場により選択肢が多様化している。それにより個々の症例に適した治療が可能となってきているが、近年、天疱瘡におけるCD20抗体療法を代表とし、新たな治療法が使用可能になることが予想される。海外においてはBruton's tyrosine kinase (BTK)阻害剤、neonatal Fc receptor (FcRn)抗体、 anti-eotaxin-1抗体などの新規治療法の治験が進められており、近い将来、さらに治療が多様化し、天疱瘡・類天疱瘡治療の新時代が到来することが予想される。

それらの新規治療法について紹介するとともに、現在国内で選択可能な治療法についてもその作用機序からみた治療戦略について考えたい。

【１日目】

Session IV　　1月 11 日（金）13:20-14:10 4F 中講義室

座長　出光俊郎（自治医大さいたま）

１３．水疱性類天疱瘡における制御性Ｔ細胞の機能性分画の解析

○村松　憲（むらまつ　けん）、氏家英之、Zheng Miao、岩田浩明、氏家韻欣、葭本倫大、伊東孝政、清水　宏（北海道大）

１４．当科におけるリツキシマブ投与例の長期経過の検討

○中村和子（なかむら　かずこ）（横浜市立大学附属市民総合医療センター）、松倉節子（横浜市南部病院）、大須賀裕子、高松法子、鹿毛勇太、池澤優子、河野真純（横浜市立大学附属市民総合医療センター）、高橋一夫（国際医療福祉大学熱海病院）、蒲原　毅（横浜市立大学附属市民総合医療センター）

１５．当院における天疱瘡･類天疱瘡に対するIVIG療法の検討

○横見明典（よこみ　あきのり）、後藤範子、林　真未、角村由紀子（市立豊中病院）

１６．落葉状天疱瘡自己抗体はデスモグレイン１とデスモコリン１のトランス結合を阻害する

○石井　健（いしい　けん）、吉田憲司（東邦大[大森]）、John R. Stanley（Pennsylvania 大）、石河　晃（東邦大[大森]）

【１日目】

Session V　　1月11日（金）14:10-15:00 4F 中講義室

座長　田中俊宏（滋賀医大）

１７．皮疹軽快後も抗デスモグレイン3抗体価が高値を示した尋常性天疱瘡の1例
○西原克彦（にしはら　かつひこ）、原田泰枝、白石　研（愛媛大）、森実　真（岡山大）、佐山浩二（愛媛大）

１８．皮膚症状発症時は抗デスモグレイン1抗体が陰性であったが、3年後の検査で陽性が確認された落葉状天疱瘡の1例
○國廣佳奈（くにひろ　かな）、岩立和子、北島真理子、末木博彦（昭和大）、石井文人（久留米大）、橋本　隆（大阪市立大）

１９．リツキシマブ投与後ステロイドを増量して改善した尋常性天疱瘡の1例
○金岡美和（かなおか　みわ）、武山紘子、高村直子、渡邉裕子（横浜市立大）、松倉節子（横浜市立大、済生会横浜市南部病院）、相原道子（横浜市立大）

２０．抗てんかん薬によりステロイドの作用が減弱して治療に難渋した尋常性天疱瘡の１例
○山田真嗣（やまだ　あつし）、梅本尚可、高澤摩耶、塚原理恵子、永島和貴、山田朋子、川瀬正昭、出光俊郎（自治医大さいたま）

【１日目】

Session VI　　1月11日（金）15:00-15:50 4F 中講義室

座長　池田　志斈（順天堂大）

２１．エホバの証人に発症した自己免疫水疱症～難治な経過を辿り、種々の合併症を併発した１例～

○高澤摩耶（たかざわ　まや）、松本崇直、竹下雅子、梅本尚可、川瀬正昭、出光俊郎（自治医大さいたま）

２２．水疱性疥癬の1例

○國府　拓（こくぶ　ひらく）、高橋聡文、藤本徳毅（滋賀医大）、立石千晴、鶴田大輔、橋本　隆（大阪市立大）、田中俊宏（滋賀医大）

２３．肺炎球菌ワクチン接種後に水疱が出現した類天疱瘡の検討

○牧　伸樹（まき　のぶき）（NHOあきた病院）、山田朋子（JCHOさいたま北部医療センター、自治医大さいたま）、石井文人（久留米大）、橋本　隆（大阪市立大）、出光俊郎（自治医大さいたま）

２４．ラミニンγ1に対する自己抗体を認めた結節性類天疱瘡の1例

○林　大輔（はやし　だいすけ）、立石千晴、河野友香、橋本　隆、鶴田大輔（大阪市立大）

【1日目】

教育講演　　1月11日（金）16:00-16:45 4F 中講義室

座長　佐野栄紀（高知大）

Different Diagnostic Approach to Chronic Suprabasal Acantholytic Blisters

Department of Dermatology, Gangnam Severance Hospital,
Yonsei University College of Medicine, Seoul, Korea
Clinical Assistant Professor　Jong Hoon Kim

We are challenging to diagnose and treat chronic lesions in bullous diseases. Here, we analyzed two different types of chronic suprabasal acantholytic blisters in autoimmune and genetic diseases. In pemphigus, the patients who harbor chronic blisters receive long-term corticosteroid to achieve the remission. Recently, however, intralesional corticosteroid or rituximab has been effective for the clearance of chronic lesions. We found the tight clusters of CD4+ T and B cells with the expression of high endothelial venules in chronic lesions from pemphigus. This structure is called as ectopic lymphoid structure (ELS) and the skin ELSs contain desmoglein (DSG)-specific B cells, suggesting that skin ELSs in pemphigus play a role in the disease chronicity. In another study, we investigated a family with 1-year old girl having chronic blisters in the mucosa since birth. From the patient, we identified the hereditary type of homozygous nonsense c.859C>T DSG3 mutation expected to result in premature termination of DSG3 translation (p.R287*). We did not find DSG3 in the epidermis. In conclusion, we firstly reported a patient with genetic loss of DSG3.

【２日目】

Session Ⅶ　　1月12日（土）10:00-10:50 4F 大講義室

座長　浅田秀夫（奈良医大）

２５．後天性表皮水疱症の１例

○越後岳士（えちご　たけし）、筒井清広（石川県立中央）、中村　聡（石川県白山市）、石井文人（久留米大）、橋本　隆（大阪市立大）

２６．潰瘍性大腸炎に合併した線状IgA水疱性皮膚症

○六戸大樹（ろくのへ　だいき）、滝吉典子、金子高英、中野　創、澤村大輔（弘前大）、石井文人（久留米大）、橋本　隆（大阪市立大）

２７．幼児にみられた線状IgA水疱性皮膚症の1例

○森　龍彦（もり　たつひこ）、遠藤麻衣、山本美友貴、猪狩翔平、菊池信之、山本俊幸（福島県立医大）

２８．Duhring疱疹状皮膚炎の一例

○吉野春香（よしの　はるか）、市村知佳、石井　健、石河　晃（東邦大[大森]）

【２日目】

Session Ⅷ　　1月12日（土）10:50-11:40 4F大講義室

座長　山本俊幸（福島県立医大）

２９．自己抗体がBP180の細胞外領域断片に反応した小水疱性類天疱瘡（Vesicular pemphigoid）の3例

○西江　渉（にしえ　わたる）、眞井洋輔、泉　健太郎、氏家英之、岩田浩明（北海道大）、中澤慎介、戸倉新樹（浜松医科大）、清水　宏（北海道大）

３０．天疱瘡再発例における臨床像および自己抗体の継時的変化の検討

○氏家英之（うじいえ　ひでゆき）、氏家韻欣、岩田浩明、清水　宏（北海道大）

３１．DPP-4阻害剤中止でDsg3と1が下がった天疱瘡各1例とBP180抗体が下がった普通の類天疱瘡1例

○角田孝彦（つのだ　たかひこ）、佐藤文子（山形市立病院済生館）

３２．類天疱瘡患者のBPDAIと重症度インプレッションの検討

○栗原佑一（くりはら　ゆういち）（慶應大、平塚市民病院）、白木沙由理、天谷雅行（慶應大）、氏家英之（北海道大）、山上　淳（慶應大）

【２日目】

ランチョンセミナー　　1月12日（土）12:00-13:00 4F 大講義室

座長：鶴田大輔（大阪市立大）
共催：一般社団法人 日本血液製剤機構

自己免疫性水疱症における治療戦略
―大量γグロブリン療法の実際―

川崎医科大学皮膚科学教室　　教授　青山裕美

自己免疫性水疱症の急性期の治療は，ステロイド内服治療を基本治療として，補助療法として免疫抑制剤，ステロイドパルス療法，血漿交換療法，大量γグロブリン療法（IVIG）を使用する。臨床症状と抗体価をモニタリングしながら治療を進めることと，副作用対策が大切である。近年，感染症や骨折リスクの高い，高齢者の症例が増えており，免疫抑制作用のないIVIGは選択しやすいオプションである。本講演では，天疱瘡や水疱性類天疱瘡群に対する治療の実際（どんな場面で使用したか）を通じて，治療戦略を解説する。当科における経験と文献的考察を踏まえて，IVIG療法と血栓塞栓症のリスクと血小板減少症についても言及したい。